

2023年4月8日研究会」

>> フェイクカメラ(Fake Camera)談義 <<

「だれが作ったの? どうやって作ったの? で、儲かったの?」

会員番号:氏名

0987:宇田川武良

0954:小松輝之

0879:小滝日出彦(発表)



写真1 フェイクライカ II (金メッキ、トカゲ革張り) 上面と正面写真

決して間違えてはならない、細部も見逃すな、それが出来た時代はいつ、とずっと気を使っていると、少しは息抜きも必要だと感じるでしょ。

そこで今回は遊び心じゅうぶんに、ところどころで出くわすフェイクカメラ(Fake Camera)を取り上げることにしました。

あたりを見回すと、小松輝之さんが金ぴかのライカで写真を撮るのに苦心しているし、それを聞いた宇田川武良さんはフェイクものなら手元に何台もある、それを材料に提供するから、それで研究発表をしたら面白からうと仰せになる。とにかく実物に語らせようと写真に撮って上映することになりました。

ここで「フェイクカメラ」というのは、「コピーカメラ」とは違います。ライカコピーのカメラといえば、我が国のニッカやレオタックス等々、



写真2 距離計連動部の形状が異なる(白丸部)



写真3 軍艦部刻印(ボディ番号354205とある)

中国の上海、英国のリード、米国のカードン、姿かたちがだいぶ違うのを入れればまだまだあります。オット、大事なのが後になってしまった。ソ連のフェドとゾルキー、これらは構造も姿も似ているけれど、チャント自分の名前前で出ています。

フェイクのほうは、姿かたちはさて置いて、勝手にひとの名を騙るものをいいます。画学生が ゴッホの向日葵を模写して本物そっくりにできたとしてもそれはコピー。それを悪徳画商が手に入れて、ゴッホ作の新発見として売ったら、それはフェイクです。

Fake Leica II (写真1~3)

一番目に登場するのは金メッキ、トカゲ革貼り。本物と同じ字体でLeicaの刻印。Leica I Luxus風に金メッキ・トカゲ革貼り。ボディ番号はNo.354205と刻印されている。これは1942年から1944年のLeica IIの番号だ。

Fake Leica Luftwaffe (写真4、5)

二番目は大きな鷲のマーク付き。キャップにも大鷲マーク。本物のドイツ空軍用ライカはIII cがほとんどで、空軍制式を示すFLNo.38079が刻印され、背面にLuftwaffen Eigentumの記入がある。



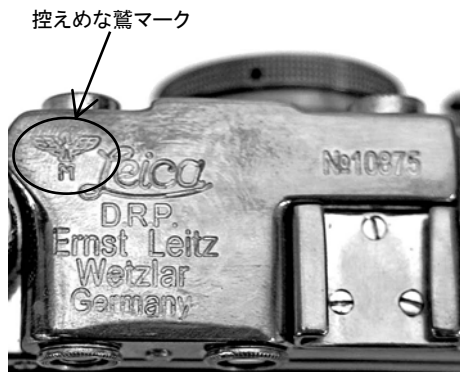
写真4 Fake Leica Luftwaffe



写真5 軍艦部とキャップに大きな鷲の刻印



写真 6 Fake Leica 控えめな鷲のマーク



控えめな鷲マーク

写真 7 Fake Leica 軍艦部



写真 8 控えめな鷲のマーク入Fakeの正面とレンズ



写真 9 黒塗りFake Leica



写真 10 黒塗りFake Leica軍艦部及び背面
Luftwaffen-EigentumとFl.No.がある。



写真 11 黒塗りFake Leica 正面とレンズ
レンズキャップには鷲とハーケンクロイツが見える



写真 12 Fake Leica Marine-Eigentum



写真 13 Fake Marine-Eigentum 上面



写真 14 Fake Marine-Eigentum 背面



写真 15 Fake Marine-Eigentum レンズとマウント部

Fake Leica-控えめな鷲のマーク(写真6~8)

三番目は小さい鷲のマーク付き。Ernst Leitzなどの文字の刻印にシャープさが無い。工房腕の差か。Body No.が10875と5桁、10875Xと6桁なら1933年のII型なのだが手を抜いたか。

Fake Leica 黒塗り(写真9~11)

四番目は黒塗り。「フェイクは金メッキ」とは限らないのだ。控えめな鷲のマークの下のMは安定感を出すための台座のつもりか。

マリンライカにはM123などの刻印があるようだ。裏面にLuftwaffen-Eigentum FLNo.鷲のマーク付き。

金メッキは剥げやすいけれど黒塗りは長持ちしそうだ。Body No.はこれも5桁しかない。

Fake Leica Marine Eigentum (写真12-15)

五番目は黒塗りだが今度は空軍ではなく海軍もの。本物は潜水艦と運命を共にしたから生き残りはまだだそうだ。

背中に海軍所有物のプリント。No.は1934年のII型。@マークは何か？

橙2色は目立ちたがりの職人気質

Fake Leica Standard (写真16-18)

六番目はフェイクも先祖帰り。本物のライカスタンダードは1932年から1950年まで製造期間があり、バリエーションも多い。このフェイクはアクセサリシューの形など、I(c)にも似ている。ファインダーの止めネジが黒色だったら



写真 16 Fake Leica Standard 上面



写真 17 Fake Leica Standard 正面



写真 18 Fake Leica Standard レンズマウント部とレンズ



写真 19 Fake Leica Sibirien



写真 20 Fake Leica Sibirien背面

Fake Leica Sibirien (写真19~22)

七番目はシベリア仕様のロシアカメラを金メッキして堂々ライカと名乗ったもの。押しの強い職人が作ったに違いない。本物が存在しないシベリア仕様ライカを楽しんで作っている。キャップの工作を愛でてください。

Fake Chiyotax III F (写真23~25)

最後はチヨタクス。千代田商会という御問屋が発売したチヨカ35が発時点だけれど、ミ



写真 23 Fake Chiyotax III F



写真 24 Fake Chiyotax III F 上面



写真 21 Fake Leica Sibirien レンズマウント、レンズ及びキャップ

ノルタの千代田光学が登録済みの名前だったのでチヨタクスと改名した。製造元のライゼカメラも社名が何度か変わっている。

品質の問題からか当時はメーカーより力のあった問屋の千代田商会が見限って終わってしまった。

本物はHexarを装着しているが、これはFakeの Simlar 付き。販売数が少ないのでFakeを作ったものか。

纏まらないけどまとめてしまおう！

- ◆ 偽カードンもあった、偽レオタクスもあったと聞けけれど、取り敢えず集まったFAKEものは素材にFEDかZORKIを使っている。



写真 25 Fake Chiyotax III Fのレンズマウント部とレンズ及びキャップ



写真 22 Fake Leica Sibirien 上面刻印

- ◆ Fake LeicaのレンズはすべてLeitz Elmar の Fake で、その素材はFedかIndustarである。
- ◆ FED とZORKIのボディとレンズは生産台数が多かったので手に入りやすく、FAKE手工業が育つ温床になっているノダ！

発表のあとで・・・

フェドにしるゾルキーにしる、既に刻印のある軍艦部カバーを打ち直して、Leicaなどの刻印を打ち直せるのだろうかという疑問に対して、会場にいた小林まゆみさんから、次のような解答が出されました。

ロシアにはこういう細工を得意とする工房が沢山ある。しかも刻印の未だ打たれていないトップカバーもらくらく手に入る。その職人たちが競ってフェイクカメラを作っている、という。なるほど、これなら納得できます。

小松輝之さんに、フェイクカメラで撮影した経験を聞くと、そもそもフィルムのパトローネがカメラに収まらない、何とか入れても滑らかに進行せずパーフォーレーションがズタズタになる、などなど大変なのだそうです。何とか撮れた時のシャープネスなどは、普通のフェドと変わらないそうです。

宇田川武良さんに、どうしてフェイク物を集めることになったのか伺ったら、本物のライカは一通り入手したけれど、師匠だった荻窪の故田中政雄さん(ご冥福を!)に、ライカは蒐集を始めたらきりが無いから深入りするなど言われた。そこで本物じゃない物ならと、集め始めたとのこと。

最後の最後にアドバイス。

金メッキした品はサウジアラビアでは金製品に間違えるので禁制品。間違っても持って行かないこと。刑務所入りになります。

カギ十字などナチスのマークのあるものは、アメリカ合衆国では輸入禁止。税関で没収されます。

(終わり)



左の写真は、小松会員が、所有の金色のフェイク・シベリアン・ライカで撮った新宿御苑の桜。コマ送りがおかしい、光線漏れ有り、ピントが合わない等々“問題点続出”との事。